

学校だより



香いを永く伝えよ



山ノ内町立南小学校

令和4年3月9日

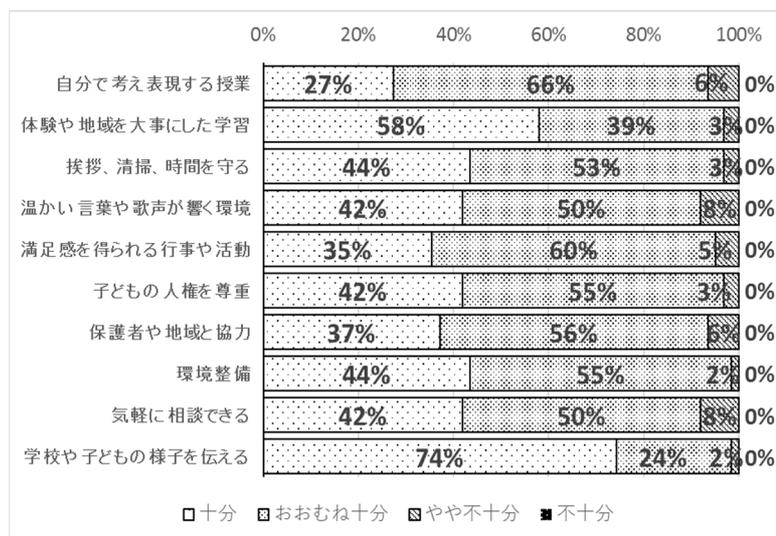
文責：岡部

日頃より、南小の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

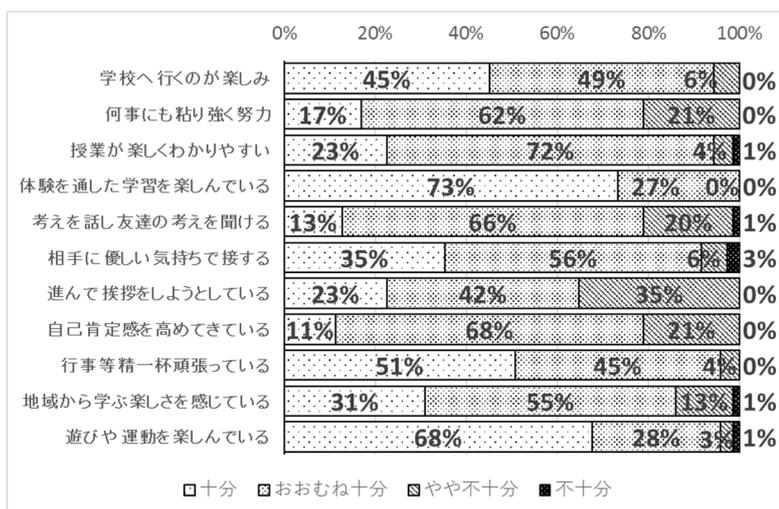
今年度は、学校教育目標「かしこく」「やさしく」「たくましく」のもと、重点を「考え・決め・行動する」とし、<教科・領域の充実（かしこく）><「みんな」で育つ 南小の子どもたち（やさしく）><こころの豊かさ・たくましさ（たくましく）>を目指して教育活動に取り組んでまいりました。昨年11月に実施した保護者アンケート、7月、12月に行った児童アンケートの結果を下記のとおり報告させていただきます。学校では、アンケート結果を次年度の教育活動に反映させ、よりよい学校づくりに努めてまいります。今後とも、保護者・地域の皆様から忌憚のないご意見をお寄せいただき、変わらぬご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

① 保護者アンケート結果より<令和3年11月実施>

○ 学校全体に関わる質問事項について



○ 一人ひとりに関する質問項目について



<考察・来年度に向けて>

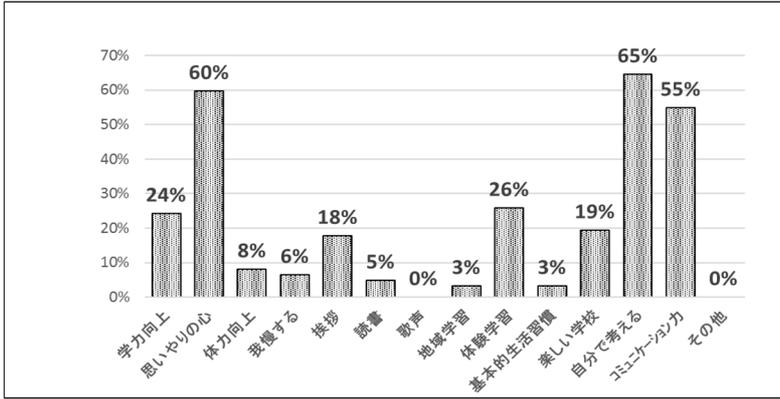
【学校全体に関わる内容について】

- どの項目も9割以上の方が「十分」または「おおむね十分」と答えている。「不十分」と答えた方はいなかった。
- 特に「体験や地域を大事にした学習」「学校や子どもの様子を伝える」については昨年よりも「十分」と答えた方が大きく増えた。今年度は「かがやきタイム」を実施できるような実施方法を工夫して行ったことや、ESD体験学習や各学年のESDの学習で地域の方と関わる活動を行ってきたことを評価していただいたように考える。また、学級だより等で子どもの様子を伝えようとする姿勢も高い評価を得ている。
- △ 「自分で考え表現する授業」では、十分と答えた方、不十分、やや不十分と答えた方の両方が昨年より減少した。自分で考え、主体的・対話的で深い学びとなるよう、毎時間取り組んでいきたい。

【一人ひとりに関する内容について】

- 「学校へ行くのが楽しみ」については、肯定的な回答を94%いただく一方、6%の方から、「やや不十分」と回答いただいた。また、「相手に優しい気持ちで接する」では昨年よりも「やや不十分」「不十分」と答えた方が増えている。悩みを抱えたり困ったりしていることがないかなど、子どものサインを見逃さないように家庭と連携していきたい。
- △ 「自己肯定感を高めてきている」については、「やや不十分」「不十分」と答えた方が減った一方で「十分」と答えた方が昨年より大幅に減ってしまった。子どもたちの良さを一層認めていけるようにしていきたい。行事後や学期末・年度末に自分の成長を振り返る活動を取り入れたり、懇談会等で保護者へその子なりのよさを伝えたりして自己肯定感を高めていけるようにしたい。

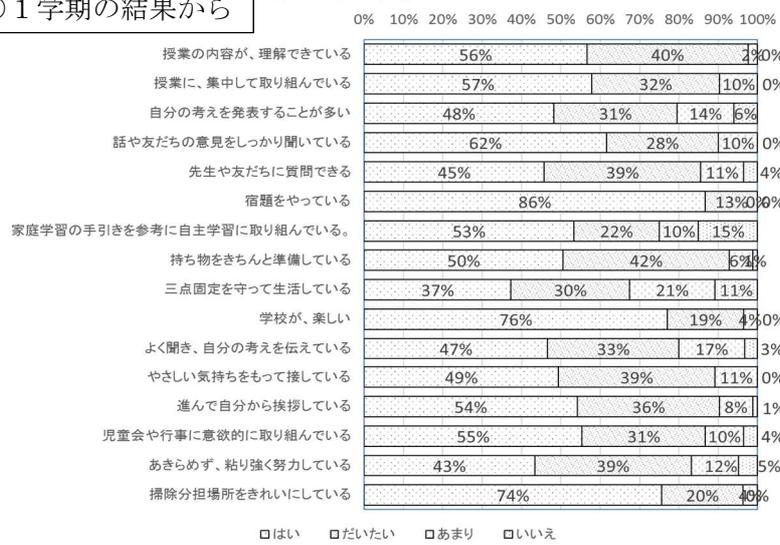
○ 南小学校で特に力を入れてほしいこと（3つ以内で選択）



② 児童アンケート結果より<令和3年7月、12月実施>

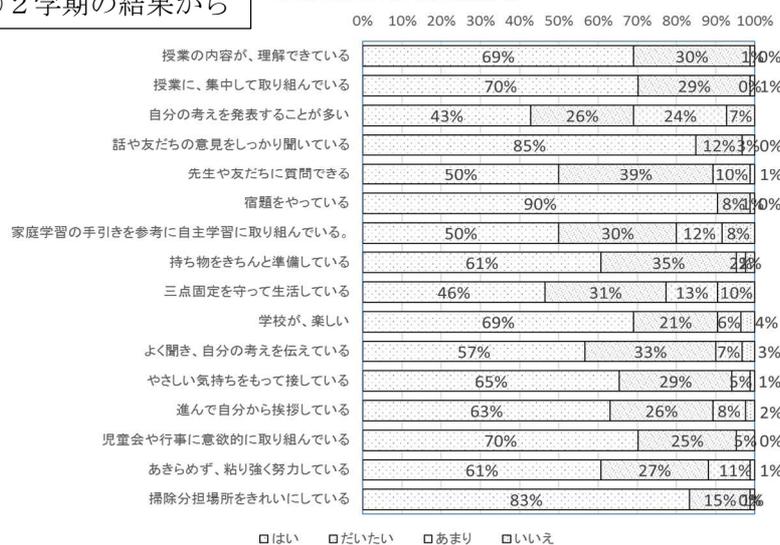
○ 1学期の結果から

令和3年度 1学期 児童自己評価



○ 2学期の結果から

令和3年度 2学期 児童自己評価



<南小コミュニティスクール運営委員会より>

- ・保護者アンケートでは、各質問事項に対する保護者のプラス評価がどれも高いことから、保護者の南小学校への信頼が高いことがうかがえます。それは、日々の子供の体験活動や学校が旧来より子どもを通しての保護者との触れ合いの積み重ねが築き上げたものではないかと考えます。
- ・これからの教育の方向は、昔のようにクラス全員を等質にと育てるものではなく、子ども一人一人の個性や性格の違いを大事にして其々のよい点を伸ばす「みんなちがって、みんなよい」ことが重要だと思います。
- ・五感を使うことはとても良いこと。見て、体験するのは話を聞くよりも大事だと思います。認め合い尊重し合う、友だちと一緒に話し合う姿がよく見られた。自分たちのときはこういったことはなかった為、今の教育に対する取組は素晴らしいと思う。
- ・かがやきタイムは南小学校独自の取組であり、地域の方々のお力をお借りし、交流しながら学んでいけることがとても良いと思います。大変だと思いますが、続けてもらうよう希望します。

【特に力を入れてほしいことについて】

○「思いやりの心」「自分で考える」「コミュニケーション力」の3つが昨年同様5割を超えている。特に「自分で考える力」については、全家庭の約3分の2の方が選択している。新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」による資質能力の向上が求められている。授業の進め方、学習方法、家庭学習などをICTも活用しながら児童が主体的に学ぶものになるよう改善を続けるとともに、学校と家庭が連携して子どもたちの生きる力・考える力を一層伸ばしていけるようにしたい。

【学習面について】

○1学期に比べ2学期の方が「授業の内容が理解できている」「授業に集中して取り組んでいる」「先生の話や友だちの意見をしっかりと聞いている」はいずれも「はい」と答えた児童が増え、「あまり」と答えた児童が減っている。授業に一層前向きに取り組んでいることがうかがえる。

△「自分の考えを発表することが多い」は「はい」と答えた児童が2学期の方が減っていることから、授業の進め方について、見直す必要を感じる。

○今年度新たに作成した「家庭学習の手引き」の活用については、「はい」「だいたい」を合わせると約8割となったが、学年により差が見られた。活用している学年の取組を全体で共有し、自ら考え取り組む家庭学習となるようにしていきたい。

○「持ち物をきちんと準備している」で「はい」と答えた割合も増加した。自律に向けより多くの児童が「はい」と答えられるよう家庭とも連携し指導していきたい。

【生活面について】

△「学校が楽しい」の質問について、「いいえ」と答えた児童が2学期は4%に増えた。児童の様子を見守り、悩みを抱えている様子が見られたら担任、養護教諭等がじっくり話を聞くなど、早めの対処をしていきたい。

○「優しい気持ちをもって接している」「あきらめず、粘り強く努力している」で「はい」と答えた児童も大きく増えた。子どもたちのよさや頑張りを認め、よさが一層伸びるようにしていきたい。